

信州上田学
古代上田は信濃の中心
上田の歴史、塩田平の歴史

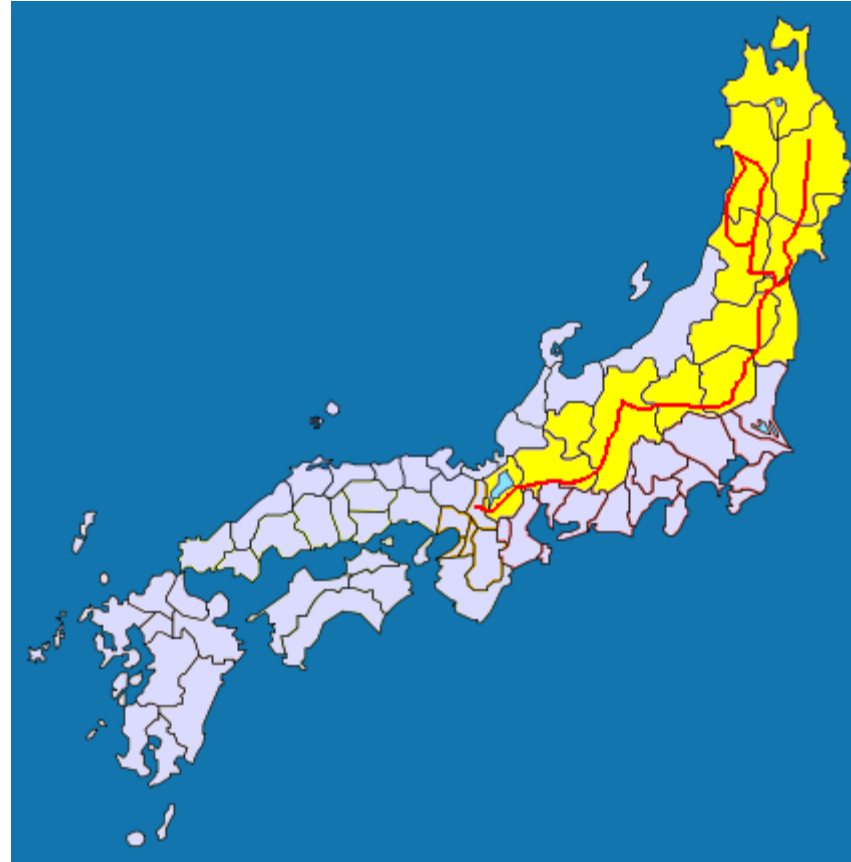
長野大学
市川正夫

①上田は古代信濃の中心

上田のはじまりとは信濃国府から

- 1 大化の改新後、大和朝廷の律令国家が成立。地方では**信濃国府(当初上田)**と**郡衙**が置かれ、都から貴族を派遣して**行政・司法・財政の権限**があり、今の県庁や国の出先機関の役割。
- 2 大和朝廷にとって**信濃は抵抗勢力の坂東地方**(毛ノ国として後の上野国(群馬県)と下野国(栃木県))や**蝦夷に対抗する前線基地が上田**。
- 3 上田地方は『延喜式』に**信濃でも稲作が最も早く始まり、条里制水田**に見られる水田開発
- 4 都と東国(陸奥国までは近江・美濃・信濃・上野・下野)を結ぶ**古代最も重要な官道のひとつである東山道**が通っていた。大宝二年(702)整備され、伊那谷・覚志(かかし、松本)・錦織(にしごり、松本市四賀)・保福寺峠・浦野駅・**亘理駅(わたりのうまや、上田市)**・長倉駅。

東山道は古代国内最大の幹線



何故・不思議から始まる信州上田学
「信州という言葉は上田から始まった」
ある県外出身の大学生の質問から

『なぜ長野大学のある上田市塩田地区(塩田平)は
「**信州の鎌倉**」 「**信州の学海**」 と呼ばれるの
ですか』

※興味・関心から始まる学びの必要性が
重要ではないでしょうか！

② 鎌倉時代の鎌倉と信濃とは

- 1185年東国に初めて幕府が開かれた
- 平安時代の都は京の平安京から関東の鎌倉に移る。都が初めて西国から東国に移動した。
- 源平合戦などで大勢の人がなくなり、源氏は贖罪の意味で寺社に寄り添い、寄進などを行った。
- 文化的伝統がない東国では新しく神仏に関する寺社をつくる必要(鎌倉五山)があった。人心の把握、武士の心のよりどころ。
- なかでも、鎌倉幕府は信濃にある善光寺と塩田地区を重視し、信濃と鎌倉を結ぶ「鎌倉道」が多数あった。

③大学のある塩田平とはどんなところか

- 上田市西部で周囲を火山性の低山系(1200m前後)の山や丘陵で囲まれた盆地で、塩田平とも呼ばれる。そこから駒瀬川、雨吹川などが流れ、それによる河岸段丘が多数ある。
- かつて農業地帯で米どころであった。現在は住宅や長野大学・上田女子短期大学、工場団地などがある。
- 塩田は130万年から4万年前まで湖であったため。その後鷲ヶ峰火山などからの火砕流による堆積物で平坦化した。
- 上田駅と塩田西部の別所温泉を結ぶ、上田地区唯一の私鉄である別所線と呼ばれるローカル鉄道があり上田市内と結んでいる
- 塩田平は年間降水量が約900mmで、国内有数の寡雨(雨が少ない)地域である。



16 青木村

別所温泉
上手

野倉

西前山

猿結山

和子

富士山

富士山

下之郷

須川

小牧

上田原

塩田平の歴史1

奈良時代

- ・ 都と東国を結ぶ**古代の官道(今の主要国道)**であった**東山道**
- ・ **生島足島神社**が中心とした塩田庄（朝廷の記録）

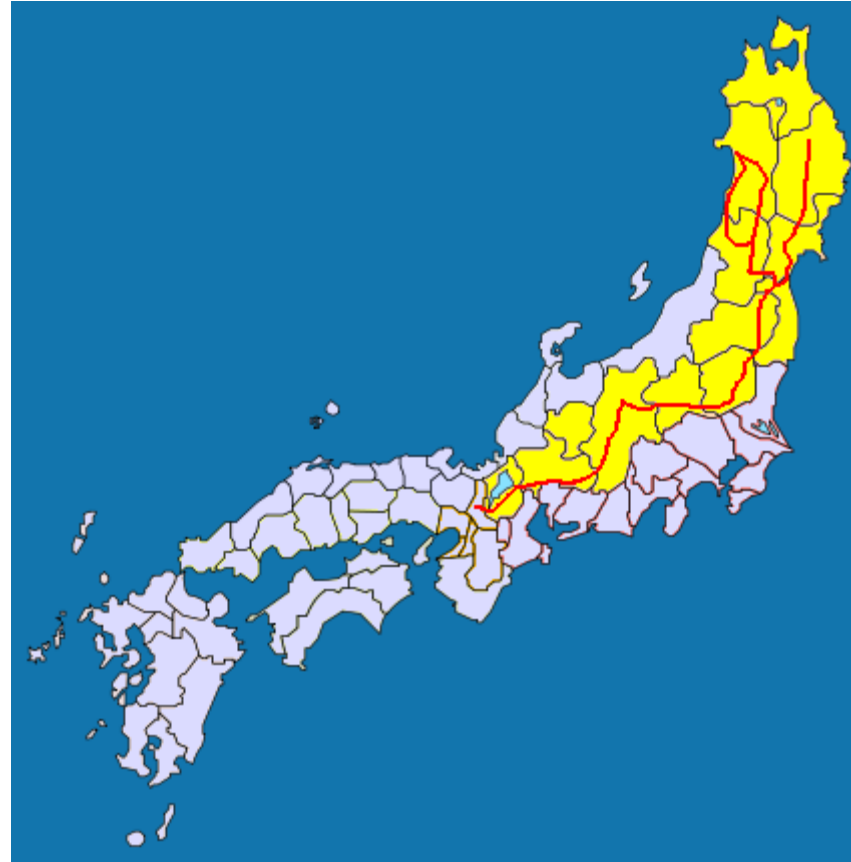
平安時代末

- ・ 最勝光院(さいしょうこういん)の荘園で白布1060反、綾被物二重(かさね)の年貢（**稲、養蚕が盛ん**で機織りも行っていた）
- ・ 8～10世紀の古代は**条里制水田**(県内では上田・長野・松本で8カ所)があり、信濃でも米どころ。

鎌倉時代

- ・ 嘉禄二年(1226)高僧の**大明国師**がこの地を「**信州の学海**」なりと称した。ここに**多くの寺院や僧侶**がいて、それを養うだけの**経済力**があった。その50年後塩田北条氏による鎌倉文化の全盛

東山道は古代国内最大の幹線



④ 何故、鎌倉時代塩田平に信濃国の 守護職(県知事)が置かれたか

- ①**最初の信濃守護は北条重時**で北条氏の執権に次ぐ重要な**六波羅探題**に在職していたが、**守護職につき信濃塩田平**に赴いた。その後信濃守護は北条氏が受け継ぐ。
- ②**安楽寺八角三重塔**をはじめとする鎌倉時代の**国宝・国の重要文化財**が**多数**ある(後ほど)
- ③**鎌倉幕府**に通じる**伝承や遺跡、石造物**が**多数**残る
- ④**長野県内**において鎌倉期の文化財や遺物が**集中的に残っている**
※いずれもなぜか明確でない

⑤ 何故塩田平には国宝(2)・国の重文(7)など
に関連する寺社があるのか

- 信濃の名門社「**生島足島神社**」には**国の重文文化財である起請文**が
多数あり塩田平の中心に位置する
- **国宝の「安楽寺八角三重塔」**は国内唯一の八角の塔
別所温泉の裏山にあり散策コース
- **国宝の大宝寺三重塔**
青木村にあり「見返りの塔」とも言われる
- **国の重要文化財の「中禅寺の薬師堂」「前山寺の三重塔」**
独鈷山の麓にあり遊歩道が整備

鎌倉時代や室町時代の遺産が多くあり、**当時一流の寺社建築家や仏師が
塩田平に訪れたのは幕府との強いつながりがあった。**

安樂寺八角三重塔

「信州の鎌倉」
安樂寺国宝八角三重塔



⑥生島足島神社はなにがすごいのか



⑥-1 生島足島神社は「日本の中心」か

- 塩田平の位置的に中心で、一説には日本の中央にある
- 一言でいうと「**皇室につながる科野(信濃)の国造りの神を祀り**
諏訪大社に次ぐ名門社」
- 祭神「生島神・足島神」で信濃最初の国造(くにのみやつこ、今の県知事)の**都から来た名門の金刺(かねさし)氏、他田(おさだ)氏**が勧請(かんせい、願って招き入れる)し国魂神(くにたまのかみ、**国土地霊の神**)として祀ったとある。(『古事記』)
- 本殿は切妻造り、拝殿は入母屋造り
- 『延喜式』(日本の神社の歴史)には生島足島神社は諏訪神社とともに「大社」で、**信濃では諏訪神社に次ぐ格式**

⑥-2生島足島神社になぜに「島」が付くのか 御神体がないのはなぜか

- 古代「島」とは国土を指す。「生島神」とはその国土に住む人が生き生き生活できることをつかさどる神(発展)
- 「足島神」とは国土に住む人々が満ち足りて生活できるようにする神(充足)
- 御神体は「国土」そのもので鏡や玉、剣はない
- 御本殿の中にある社殿はなにもない「空」で、主食の稲や麦を恵んでくれる「土」が最もありがたいもの。
- 日本の古代信仰は最も古い神社とし三輪神社・諏訪神社では「山」が御神体で生島足島神社はこの格式と古さがある

御本殿と池



⑥-3 生島足島神社ではなぜ池の中に神社があるのか

- 池の中に島を祀る形式を「池心(いけごころ)の宮苑地式(みやえんちしき)」という
- 古代の豪族が家の周囲に池や堀をめぐらして、その住まいに神を祀ったものと同じ
- 国内で最も古い建築・庭園方式

生島足島神社の全景

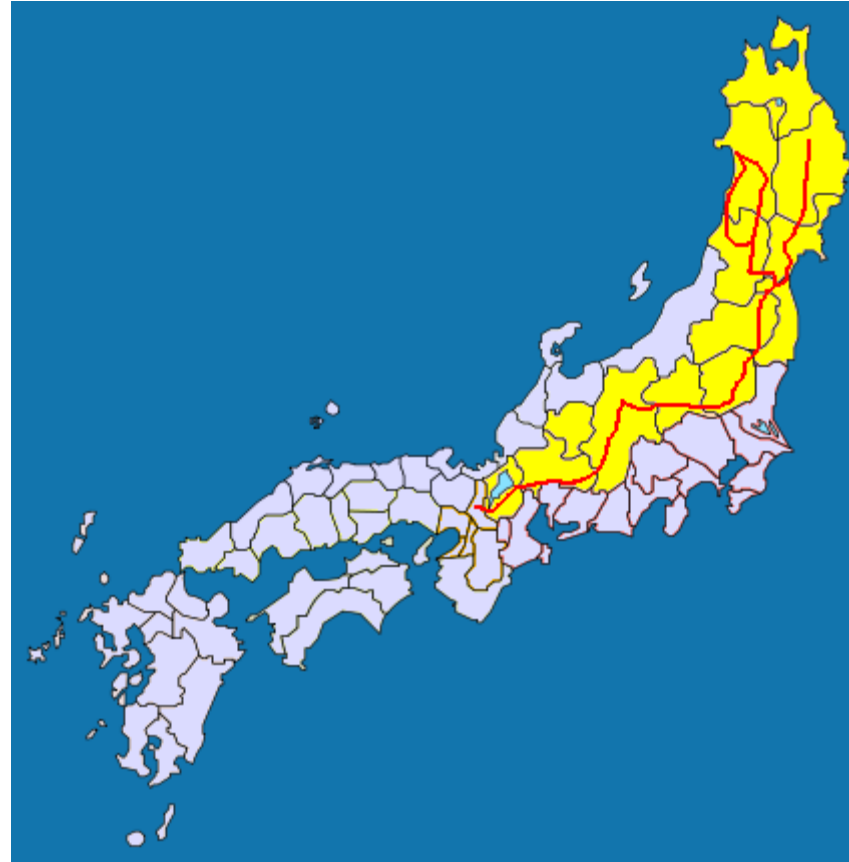


⑥-4 なぜ格式高い生島足島神社が科野にあるのか ※科野とは信濃になる前の呼称

- 古代、国内最大の幹線道路「東山道」の存在
- 東山道は古代、大和朝廷と対立する東北地方の蝦夷(えみし、えぞ)を征服するための軍用道路
- 都と東北地方の間にあるのが科野(信濃)、ながでも上田と塩田は大和朝廷の征夷(せいし、蝦夷征伐)の前線基地

※6～7世紀大和朝廷が国内を支配するために七道(東海道・東山道・北陸道・山陽道・南海道・西海道)を開き、信濃上田を通過していたことは、上田は米などの生産物が豊かであったことと交通の要地で全国の産物が集まった。

東山道のルート



⑥-5なぜ科野に宮中にある生島神と足島神が祀られたのか。古代塩田は信濃の中心。

- 大和朝廷は科野に有力豪族の「多氏(おおし)」一族を派遣
- 多氏は都から科野に下る際、宮中に祀られていた生島神と足島神を奉じ、神社に祀った
- 多氏は大和朝廷直系の一族、科野の国造(くにのみやつこ、今の県知事)に任命し、期待をしていた
- 塩田地区にある地名として「本郷」とは、多氏が治めた場所で、本郷は安宗(今は安曽)本郷ともいわれ、生島足島神社の西にあり、本殿も西にむけて建てられた

全国的にも住みやすさと N o 1・Only1の上田

自然的要因

- 寡雨地域(国内では北海道東部に次ぐ年降水量が少ない)
- 晴天率が高い
- 東西南北に山があるため景観に優れ、気候・気象などに影響(花粉の飛来する量が少ない、東西からの風が弱い、積雪が少ないなど)が小さい
- 自然災害が少ない(台風、土砂崩壊、河川氾濫、地震等)
なかでも県内では最も活断層地震の危険性が低いといわれる

全国的にも住みやすさとN o 1・Only1の上田 社会的要因

- 古代から中世にかけて信濃の政治中心地
- 日本最大の輸出品「生糸」は上田から
- おいしい食べ物がある(日本一の松茸の産地、信州サーモン、信州牛、ブドウ、ナシ、モモ、サクランボ、カキ、クリ、高原野菜など)
- 交通の便が良い(東京まで北陸新幹線で一時間弱)
- 長野県第三位の都市である社会資本に恵まれている。大学・高校などの高等教育、大型スーパー、大病院等。
- 「信州の鎌倉」と呼ばれ、鎌倉時代の国宝や国の重要文化財の寺社等が多い国内有数の文化都市